











月の異名 - つきのいみょう -

1月 睦月 (むつき)	7月 文月 (ふづき)
2月 如月 (きさらぎ)	8月 葉月 (はづき)
3月 弥生 (やよい)	9月 長月 (ながつき)
4月 卯月 (うづき)	10月 神無月 (かんなづき)
5月 皐月 (さつき)	11月 霜月 (しもつき)
6月 水無月 (みなづき)	12月 師走 (しわす)

二十四節気 - にじゅうしせっき -

- 立春** (寒さも峠を越え、春の気配が感じられる)
- 雨水** (陽気がよくなり、雪や氷が溶けて水になり、雪が雨に変わる)
- 啓蟄** (冬ごもりしていた地中の虫がはい出てくる)
- 春分** (太陽が真東から昇って真西に沈み、昼夜がほぼ等しくなる)
- 清明** (すべてのものが生き生きとして、清らかに見える)
- 穀雨** (穀物をうるおす春雨が降る)
- 立夏** (夏の気配が感じられる)
- 小満** (すべてのものががしたいのびて天地に満ち始める)
- 芒種** (稲などの穀物を植える)
- 夏至** (昼の長さが最も長くなる)
- 小暑** (暑気に入り梅雨のあけるころ)
- 大暑** (夏の暑さがもっとも極まるころ)
- 立秋** (秋の気配が感じられる)
- 処暑** (暑さがおさまるころ)
- 白露** (しらつゆが草に宿る)
- 秋分** (秋の彼岸の中日、昼夜がほぼ等しくなる)
- 寒露** (秋が深まり野草に冷たい露がむすぶ)
- 霜降** (霜が降りるころ)
- 立冬** (冬の気配が感じられる)
- 小雪** (寒くなって雨が雪になる)
- 大雪** (雪がいよいよ降りつもってくる)
- 冬至** (昼が一年中で一番短くなる)
- 小寒** (寒の入りで、寒気がましてくる)
- 大寒** (冷気が極まって、最も寒さがつのる)

